平成 23 年 4 月 7 日

病害虫情報 No. 15

茨城県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除は適期を逃さず行いましょう！

薬剤散布の開始時期

小麦･六条大麦：出穂期～穂揃い期に開花を確認した時
二条大麦：穂揃い期の 10 日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時

［現在の状況］

① 農研速報（3 月 30 日, 4 月 1 日発表）によると, 小麦の出穂期は水戸市では平年より 3～5 日遅く, 龍ケ崎市では平年より 4～5 日遅くなると予想され, 六条大麦の出穂期は水戸市では平年より 9 日遅く，龍ケ崎市では平年より 6 日遅くなると予想される（表1)。

② 気象予報（4 月 1 日発表）によると，向こう 1 か月の降水量は平年より少なく，期間の後半（4 月 16 日～29 日）の気温は平年並または平年より高いと予想される。

表 1　小麦および六条大麦の予測出穂期（農業研究所）＊

麦種	品種	播種期	出穂期（水戸市）		出穂期（龍ケ崎市）	
			本年（予測）	平年	**本年（予測）**	平年
小麦	農林 61 号	11 月上旬	**4 月 30 日**	4 月 25 日	**4 月 24 日**	4 月 19 日
		11 月中旬	**5 月 5 日**	5 月 2 日	**4 月 28 日**	4 月 24 日
六条大麦	カシマムギ	11 月上旬	**4 月 23 日**	4 月 14 日	**4 月 14 日**	4 月 8 日

＊農研速報（3 月 30 日，4 月 1 日発行）をもとに作成した。

［防除対策］

① 薬剤散布の開始時期は，小麦・六条大麦では出穂期～穂揃い期に開花を確認した時，二条大麦では穂揃い期の 10 日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時である。麦の生育状況を正確に把握して，表 2 を参考に適期に必ず薬剤散布を行う。

② 本病原菌は，小麦・六条大麦では開花期，二条大麦では穂から葯が押し出されてくる時期（穂揃い期の 10 日後頃）が最も感染しやすい。この期間に降雨が続き，平均気温が 18～20℃以上になると本病の発生が多くなるので，今後の気象に十分注意し，防除を徹底する。

③ 1 回目の薬剤散布後, 発病の好適条件が続く場合は, 7～10 日後に 2 回目の散布を行う。ただし, 出穂期以降 1 回しか使用できない薬剤があるので注意する。

表 2　麦類赤かび病に登録のある主な薬剤（平成 23 年 4 月 1 日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 －本剤の使用回数	対象作物	有効成分
シルバキュアフロアブル※	2,000 倍	7－2	小麦	テブコナゾール
	2,000 倍	14－2	大麦	
ストロビーフロアブル※	2,000～3,000 倍	14－3	小麦	クレソキシムメチル
			麦類 (小麦を除く)	
チルト乳剤 25※	1,000～2,000 倍	3－3	小麦	プロピコナゾール
	1,000～2,000 倍	21－1	大麦	
トップジンM水和剤※	1,000～1,500 倍	14－3 (出穂期以降 2)	小麦	チオファネートメチル
		30－3 (出穂期以降 1)	麦類 (小麦を除く)	
ベルクート水和剤	1,000～2,000 倍	21－3 (出穂期以降 1)	小麦	イミノクタジン

注 1）※印を付けた薬剤の登録内容で，無人ヘリやブームスプレイヤーによる高濃度少量散布については，別途確認してください。

注 2）農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ，周辺作物への飛散に留意して使用してください。